

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○		グループ数の部屋数がないので、プログラムの内容で屋外を使う等工夫はしているが、天候次第などところがある。また、新型コロナの関係でスペースをとる上では狭さを感じる時もある。	
	2	職員の配置数は適切である	○			指定基準より多くの職員を配置している。	・グループの実態に合わせて配置はしているが、プログラムの内容により不足を感じる時もある。活動に合わせた全体調整を行っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		成人の事業で使用していた建物のため設備は既存のまま使用している。階段に関しては幅は広いが手すりが片側しかない。エレベーターがあるので必要に応じて利用している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○		週案を決める際、プログラムや子どもの様子を振り返りながら次のプログラムを考えている。	アルバイト職員への周知がしきれていない。子どもの来所前に打ち合わせを行うが、文章にもして全体周知できるようにする。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている			○	アンケート調査は、年1回の保護者向け評価表でのアンケートのみになっている。昨年からの改善できていないことも多々ある。	指摘頂いたことについて可能な限り対応していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページで公開。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している		○		全体では法人内研修 年2回 新型コロナの関係で外部研修への参加は減る。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している		○		客観的な複数の視点に欠けている。	職員間でも複数の視点で行う機会を作る。項目についても、検討していく予定。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している			○	標準化されたものを使っていない。	必要に応じて、アセスメントツールを使用する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			週1回、活動プログラムを立案する会議をもち、プログラムは、子どもの来所前にアルバイト職員とチームごとに打ち合わせを行っている。	

適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			固定化にならないよう変化を加えながら行っている。季節の行事を中心に グループの実態に合わせて、興味のあるものを取り入れ計画している。		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			子どもたちの希望も取り入れながら、生活体験を多く取り入れたり体を使ったプログラムを立てるようにしている。		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成している	○			子どもの実態や発達に合わせたグループを作り その中で個別の対応が必要な子供については個別活動を行うようにしている。		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			送迎前に担当職員とプログラムの流れを確認。留意点についても共有している。	雇用の形態から時間的に難しいアルバイト職員も出てくる。打ち合わせの内容は大事なので、共有方法を検討していく。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			送迎後、記録を記入しながら その日の子供の様子や プログラム内容の反省、保護者からの話を振り返っている。		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている		○		記録の記入の仕方に個人差がある。	記入のマニュアルを作成して 振り返りにつながるようにしていく。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している			○	モニタリングというカタチではないが、子ども個人の状況の把握は送迎で保護者から話を聞いたり、電話で様子をうかがうこともある。		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている			○	出来る範囲で行っている。		
関係機	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○					
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○					
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○				主治医訪問として年1度は行っている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている			○	待機者として数年待っていただいている方が多いので、利用の時には就学前の情報は保護者からのみになっている。	就学前の書類も資料として提出していただけるようにしていきたい。	

関 や 保 護 者 と の 連 携	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			卒業前の担当者会議で情報を共有している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			○		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○	保護者の要望もなく、子ども達の実態として難しいので機会として設けていない。	地域の公園に出かけたときに出会う小学生や地域の子どもとのちょっとした関りはある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			療育部会に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時の会話や連絡ノートで共通理解の向けて努力している。	子どもの状況によってはこまめに保護者と連絡をとりながら共通理解に努力している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○	職員の知識不足もあり、行うことができていない。	
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			利用開始前に説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			送迎時の会話や、電話で相談があった際には助言を行う努力をしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○	新型コロナウイルスの影響で開催が出来ていない。	保護者からの要望もあるため、開催については前向きに検討をしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			日常のご要望、ご意見に対しては、可能な範囲で対応を心がけている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している			○	法人のお便りやFacebookで放課後デイのことを掲載することはある。	掲載も定期的ではないので、放課後デイとしての発信の仕方を考えていきたい。
	35	個人情報に十分注意している	○			日常業務の中で注意している。	保護者アンケートでは、「どちらともいえない」「わからない」というご意見を頂いている。配慮が十分ではなかったと感じている。改めて、職員間で意識を高めていく。
36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			子どもとは、言葉以外のツール(写真カード等)でも意思の疎通を行っている。	今の対応が十分であるかは不明であるが、今後も職員で学んでいく必要はあると感じている。	

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	法人として後援会まつり等で地域の方にご案内をさせてもらっている。	今年度は規模を縮小して、後援会まつりを開催することができた。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している			○	マニュアルがあるものもあるが、正規職員以外の職員への周知が十分ではない。	新型コロナウイルス感染症についての対策文は配布しているが、他のマニュアルについては掲示できるようにしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			避難訓練については、年2回行っている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			外部の虐待防止研修に参加し、書面にて共有をしている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			車椅子を使用されている方は、個別支援計画で、ベルトの必要性を明記し、保護者に了解を得ている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			○	医師の指示書に基づいた対応ではなく、保護者の発信のもと、対応をしている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			法人として、ヒヤリハットがあった場合は、書面で情報共有を行っている。	